



退食間話

□ 13
3079

退食間話



口13
3079



會澤先生述

退食閒話

御藏板

退食間話序
天保戊戌。我。納言。以。創。弘。道。之。館。勒。記。於。石。言。所。以。教。告。臣。民。之。大。綱。臣。安。以。謏。劣。辱。蒙。恩。命。與。青。山。延。于。同。紡。教。職。日。登。館。而。後。公。事。焉。淺。陋。之。學。毀。瓦。畫。墁。雖。多。涓。埃。禩。補。而。其。志。則。欲。少。有。所。維。持。名。教。退。職。之。暇。與。客。應。接。童。蒙。或。求。於。我。新。舊。諸。友。亦。或。時。來。間。語。移。晷。秉。燭。語。歷。及。



會辦於主世

退

言

咄咄

於我。公所以設學之意也。一日安侍讀。
公從容謂曰。曩作弘道館記。然意義多端。
記文之體。不可以詳悉焉。今汝與延子等
議。解以俚俗之語。使初學及不識字者。亦
得覺其梗概。安唯。而退。而自省。固較
偏僻。何足以稱道。盛衰之萬一也。然其
命之重。亦可以辭。乃與延子等議。各述所
見。以供採摭矣。因取曩日與諸友及童蒙

言。錄為小冊。以塞其責。迂腐之論。雖無
足取。而瓦礫之物。亦未必皆所不用。夫道
善大路然。出於天經。存於民彝。五品外
有五教。百姓日用。而不識。雖至筆之。而人
自求之。不必有師也。然而大德不用。則
榛荆生焉。五教不敷。於人或不能自求。而
故道不弘。人弘之在於人。若夫一其治與
教。以弘斯道。必明其賢相之所為。安也。不

才。謹守其職。以談聲教之決於斯人者。任
寓季冬。會澤安識

退食間話
會澤安識
余弘道館より退き机に憑て書を繕せし折一人来て閑談
を語次教學の事及ふ其人問て云今度國小學館を設け
弘道館と名つ多記文を碑に勒し其大意を喻し給ふ其
拜誦し頗る盛意の萬一を曉りしやうあれとてつら
其詳なる事を知り得し願くも其義を委曲に解喻せられ
答曰其不才ありて猥に教職に命せられ候得やも學術
淺陋ありて其任に堪るべき事や一日ありても教職を瀆
し居らんも吾子に問ひ答へさるむも本意はしに敢て愚



退食間話



會澤安謹述

余弘道館より退き机に憑て書を繕せし折一人来て閑談
を語次教學の事及ふ其人問て云今度國小學館を設け
弘道館と名つ多記文を碑に勒し其大意を喻し給ふ其
拜誦し頗る盛意の萬一を曉りしやうあれとてつら
其詳なる事を知り得し願くも其義を委曲に解喻せられ
答曰其不才ありて猥に教職に命せられ候得やも學術
淺陋ありて其任に堪るべき事や一日ありても教職を瀆
し居らんも吾子に問ひ答へさるむも本意はしに敢て愚

説を是ありやまらふ非されども即ち管見の及ばぬとの
事ハ告申るゝ吾子又廣く有道の君子ハ就て愚説の當否
を質され

客曰さして一二の疑義を問申るゝ先人能弘道との経語
の意ハ道者性中ハ備はるものやれハ己の心を以て己の性
を盡して道を弘むるは義と承るも然るも弘道館の記ハ
心性を説給ふに師説と異ありみ似たりや何ぞや
答曰中庸ハ率性之謂道脩道之謂教と申せハ道を脩て性
ハ率ふハ勿論ありやれやれ是も道の立たる本を論るゝ
詞なり道を弘むるゝハ本を性ハ率て立たる道やれと

も是を人の所業とせり天下ハ推廣むるの義ありハ道
の本を論むるとハ其指の所異なり後世を學問ハ士庶ハ
とありて道を論むるも一身の上のみハ目をほけり己
の心性を治むるも道を論むるも古の道ハ記中
にも載給るゝ如く道者天地の大經とて天地は自然
然ハ人倫備り人倫ありハ自然ハ五典の道備り故ハ父
子ありハ親あり君臣ありハ義あり是皆天下の大道正路
あり一人の私言ハ聖賢上ハ政教を施し
て道を天下ハ行い下ハありハ言を立て材を育して道を
後世に傳ふ道者大路の如く衆人の往来する所も自然に

道路をあら道を弘む所を自然に道路に隨て旗亭をた
て廬舎を設て擔夫馱馬を置四海の隈をくも往及滯事
あららむむるあともふはあく天下の人をくも人倫の大
道に由らむむるをくも是皆人力のあら所を聖人も
人能弘道と仰せられくもあり今弘道館をけ設け給ふ
も天地自然に備るる大道明らかふくも衆人の往及
滯る事なく多岐に迷ふ事あららま悉く志し給ふに即
ち人能弘道の義なるへくも大道既く明らかふくも士民皆
むふ所を知り曲學不經に迷ふ事時を人自く己
の性を盡さむ事も各才徳の長短をくもて其人は長まら

所を成就する事を得べきかと存し候なり
問上古

神聖天下の基を神創し給るは時等の事を記し給る
古事記日本紀古語拾遺等と外にも何れは書み人倫
の道なり、説給るはあやき見へ侍ら記文に生民不可
須臾離者也と記し給へる人倫の道を指し給るなり
をく然るも

神聖の極を立給ふは斯道に由らまはるるに載給ふ事
何れは乃義あり候なり
曰神代の事實後輩晩學の某猥に喙を容せ候はむを尤も

恐也憚るる事なれども聊所見哉述る只今吾子の問ふ
 答へ且大方君子の是正を乞申へし上古淳朴の世ハ
 神聖の彞訓を垂建給へるも言語を以て考へし行事ハ
 因りて其義を示し教を其中に寓して萬民の法則を以て
 給ふなり人乃五倫ハ父子君臣夫婦長幼朋友の五品ハ
 是ハ五典とも申あり第一君臣の義と申ハ
 天照大神高天原にありて
 皇孫天津彦瓊瓊杵尊に
 天位を傳へられしと云ハ八坂瓊曲玉八咫鏡卍薙劍三種の
 神器を授給ひて葦原千五百秋之瑞穂國ハ是吾子孫可王

之地也と宣ひしと云ハ此神器を以て永々
 天位は信とかり給ひ是より君臣父子の大義著せし
 天位の尊き事天地闢き初より今日に至るまで一人ハ
 天位を犯さ事なからずあり四海の外萬國多しと云ハ
 此の如くも是てたゞの絶へたハ即君臣は義あり
 て言語は信に依りて其教自然に備れり是父子の親と
 申す
 天照太神神器を授き給はし時御手は寶鏡を取らるれ
 て吾兒視此寶鏡當猶視吾と宣ひしと云ハ床を同一く殿
 と共みし寶鏡を以て

天祖の神主と仰し給ひ是より父子の親顯き

天日嗣を受継せ給ふ君を必き

日神の御末より神代の古より今に至るまで

皇紡易らせ給ふの寶鏡を

天祖の神より永く伊勢より

日嗣の君

太神宮を拜し給ひの寶鏡を照し給ふ御容即ち

日神の遺體はゆきやハ玉體ハ即

日神と同體よりゆき萬億年とつくと同體乃親より

盡させ給ふは父子の親是より博きハ即ち天地の始

伊弉諾尊好哉の歌を

伊弉册尊先たちて唱給ふ

其時より夫婦の別明あり

あり

伊弉諾尊伊弉册尊天より

天照太神月夜見尊素盞烏尊を生給ひ一時

天照太神ハ高天原を治き月夜見尊ハ夜の食國を治

き素盞烏尊ハ滄海原を治きと任し給ひハ兄

弟の序あり思兼手力雄兒屋太玉建雷猿田彦等の諸神心

を同じて

天神を輔翼し奉り友を以て仁を輔けし朋友の信を申
ありかくのありく五倫の教を天地の始より立て今日
至るまで人々その君臣父子夫婦兄弟朋友の道を離れ
て世に居不事あるをいざなひしれ今も仰き奉るの念
至尊を輔翼し奉るの念

天照太神と同體をまきりし大將軍ハ數百年の亂を
平き萬民を安んじ給ひし東照宮の御嗣あり

天朝の政を天下に布て民を治め兵革盜賊等の憂をまぬ
り給ひし給ふ邦君も天朝の藩屏大將軍の公

職あり各其國を治め給ふ今此海内を生きたる臣民の數も

備りしもの誰り天子ハ大將軍と邦君との恩

澤を蒙らるるもの何れんやされ人各五倫の道を盡し
て國恩の萬一をも報し奉るべしと志ん事誰り其道を離

れど得つるや記文ハ神聖の斯道も由れしと載給へしハ
か不意味あり侍ら

むるも存し奉るなり問 寶祚以之無窮。國體以之尊嚴蒼生以之安寧。我

狄以之率服とありし別の言もありし粗解し得るもや
かれとも願くハ其詳ある事を聞ん

曰 寶祚の窮り無き事も前も書く如く

天照太神三神器を授給ひて君臣の義正しく寶鏡を吾を
視る如くせよと宣ひしより父子の親博く忠孝の教二門
たうし全し是よりて人心一定し他は移るに千萬世
経るといふも太初は君と仰き奉りし
至尊をらせ給はれ今日仰き奉る所乃
至尊を即ち

天照太神と同體なりはせし人情風氣も自づから厚く
天位を覬覦する人もあらず
寶祚窮りあらずも尊
むべきことありけりや 國體の尊嚴の事ハ四海の外ハ萬

國多しといふは天地の間は至て尊きものハ只一の
らてハたき道理なり然るに外國にて其帝王と稱するも
のも其種姓を遷り易りて 天朝の如く
皇統綿綿なり唯一體のみなり候事ハ萬國あり
て一てたき事ありか不絶てたきなり其本ハ天地
の始よりし君臣父子乃大倫正しし人情風氣厚き
よりりかくのちや萬國ハ勝るるたきなり 國體も
是よりりて尊き非きや且蒼生の安寧あり古ハ異端
邪説といふ事もあり古言ハ唯神といふ前よりく如く
神明の教のありて君臣父子の大倫亂さざりて

異域五胡十六國たつる如き大亂ハ曾てあつり
 一治一亂ハ天下の常なりハ太平久し
 縉紳宴安ヲ溺せしむる如き大亂ハ曾てあつり
 神聖の教衰へる君臣父子の道正しむる保元平治の亂
 ありて 朝威衰へ壽永承久元弘建武等の亂ありて
 四海鼎沸是よりして戰鬪暫とも止む 東照宮禍亂
 を平治給ひて民始て干戈を免む其父母妻子を養ひ
 安穩に身を終る事を得む 神明の教正し君臣
 父子の大倫斷滅せざるありて天下の亂も遂に正し
 たり蒼生も安寧なり非を夷狄の率服する事も

皇太神を祭り祝詞を遠國八十綱打かけ引寄る
 ありて素盞烏尊新羅に渡り給ひて崇
 神天皇の御宇任那の人帰化しやう神功皇后三韓を征伐
 し給ひて西蕃服從し 景行天皇日本武尊を
 て蝦夷を征伐せしむる 桓武平城嵯峨の御時
 に至りて坂上田村麿文室綿麿等の名将を得て終に蝦
 夷を海外に逐退りて東地静寧なり中より 成明天
 皇の御宇ハ肅慎やう征伐して威を遐方ハ震い給へ
 り其後女真蒙古等の寇亂ありて深患を起し事なり
 豊太閤ハ朝鮮を伐り威を海外にふるも是よりして又

夷狄の道を以て神明の教を害する事も天竺の道
神州を行きしより民心始て純一なり又西土奢麗の
風は神明の邦に移りて堂塔を作り田園を寄附し
てより為り天下正税の半を絶えと古人もついに如く終
に四海困窮せり延曆興福園城寺等の僧徒強詐してや
て其れを以て天國を犯し他國をも一向専念の徒横行
して加越歴世の邦君も是より為り滅亡を長島石山等の一
揆ふは織田殿の英明なるも大に手を摧き土呂針崎の
亂をも參河武士の忠義の名を天下に得るも君父に對
して弓矢を執り西洋の邪徒来りまふ及むて詭術を以

て民心を迷し神明の邦を變じて狡夷の属とせん
あやむ謀る然るに織田殿山門以下諸國の惡僧を討ち平
す西洋の姦謀を覺り邪徒をば卻りんと豊臣家邪徒を
海外に逐ひ退す東照宮に至りては邪徒の禁つる
嚴より其後寛永の時に至りて盡く是を殄滅して遂に
其根柢を絶給ふ此段外夷も傳聞て曰日本人有三眼とて
震い恐るしとあり是又神明の教正しく人倫の道
を天地の間を廢せしむる自然の大道ありと有りて
再い正しく道は及び夷狄も率服せしむる道理ありにや
然るに寶祚の無窮國體の尊嚴蒼生の安寧戎狄

の率服何きも空言に可く其事實ありありあり
 問唐虞三代の治教資以賛皇猷と有之候へとも西
 土ハ文を尚ひ神州ハ質を貴い候風俗あり各異なり
 所有之を西土の俗と混淆し候も古の淳素
 の風を失つりと申説も有之を如何
 曰天地の間ハ大道を一あり二あり無之候質と文とを
 車の兩輪の如く偏倚無之を大道と申へ故に孔子も文
 質彬彬然後君子と仰らまじり神州の質なりと西土
 の文を以て助くるハ即取於人以為善とつゝ義ありさ
 て文のみ文の弊あり質のみ質の弊ありて文質彬彬とい

つとも實事ハ施き事ハ至て難かるべしされとも神
 刑の質ハ西土の文ハ五倫の大道ハ於て毫も損益ナ
 り但神州も前に申すや五倫の實ハあれと
 五倫の名は弊ハ人其實を去るありて得て堯舜孔子
 の立給るる名なりり神州の本より可く處の自然
 の實を知る事を得る即賛皇猷ありさる治教と申
 ありて治を國家に治をの法度政令なり教を禮樂教化
 法度制令なり禮樂教化ありて手足の働ありて心
 性の本ありてありて禮樂教化ありて法度制令ありて心
 性の本ありて手足の働ありて治と教を備らる

世ハ治も苟且の治あり教も死物とありて用おたせんに
 神州の治教ハ其本立て是を働らさるる道具あり西土
 の治教ハ其本を論ずりてたも君臣の義切らうありて
 神州はあつたふ所あきやも其道具は備わら故に是を資
 とし〜 皇猷を賛けん〜ハ斯道愈大と愈明たると
 変理は〜是は文質彬彬と申つたり
 問中世以降。異端邪説誣民惑世。俗儒曲學舎以從彼とあり
 ハ〜事候や

曰天竺西洋の邪教の害の如きは前論をるるあり
 と世又知る所なり誣民惑世との事ハ人民ハ人倫の道を

盡きの外たけし事ありと眼前の人倫ハ父祖と已と子孫
 の三川の即既往當今將來ある事を知らん三世の説を
 設るふより君父をも依令といひたり自然ハ恩義をさ
 ありゆき忠孝の道ハ軽くあり又本地垂迹の説ハあり
 赫赫と 神明を胡鬼の分支餘裔のありと説か
 し民を去り 神明を瞻仰するの心を他に移さしむ
 天無二日土無二王と申さるる至て尊き物ハ二川切道
 理たり巧辨を以て國中ハ萬衆の君より尊々太初の
 神明より尊き物ありと説かす萬民の心を盡惑す是
 誣民惑世の甚しきなり俗儒曲學舎以從彼との義

し戦争の世に讀書するは五山の僧やとも有り元々
 り僧徒の外國の異端を學びて國體を失はれ漢
 土天竺の教を貴き國ありてかもし事しむやも足る
 近世のつとりに物祖徠の徒のあやしく唐土をも中華中國
 あり稱し自ふを日本東夷あり稱する類有り是れ神
 州乃臣民敢てつとる所あり新井氏あり關東を王
 と稱せしむる天朝を宥公の如く申奉人も西土の
 名號ありしむる東照宮の皇朝を尊崇し給へ
 る深意はたゞかり物新二氏いひても豪傑の士あり
 其あひてせむ所の書も世に益ありもの多しといへり

舎以後彼の病は遁るはくは又皇國學と稱し
 神州の尊き事を稱揚し奉るは卓識といふは處あり
 と大に人心世道の益とありつとる事も少くは舎
 以後彼もつとる其功の大なる事もありと多くは
 治教の大體を知られし人ありしは私を以て一
 神聖經綸の道は聞かぬ人倫の天叙を外し私を以て一
 種の説を設け人道を牛馬に同し若し墨翟の意は
 近き自己の偏見を執りて堯舜をも譏議し大人は押し聖
 人の言は侮りて天朝ありし資とて皇猷
 を賛め給ひて深遠の意を容さる事あり至ては又舎以

從彼の徒に近ううへり又文墨の藝の如きも道を尊い教
を施す筋やしあはへき事なれども
神聖の大道を高閣に束ねて浮弄の虚文を以て翫い風流に
身を委ね世を嘲り自りくちりくちり逸樂に任せて身を終
るの流に至り又ハ莊周等の流におちつり自りくちりくちり
やぐりまぐりの徒にしく仁人君子の道にけり又經濟學
と稱するもの國家の事功に益ありとつくとも其末流ハ
近効小利に趨りて一己の私智を恃みて聖賢の大道に本
つらされハ利を先にして義を後にするの害やまはあは
れ又自己の修身のみ説て報國愛人の義もかく民人社稷

を餘處にまゝ類も身も本はくも其意を善かきとも楊朱
の道に近く庶人の行もしく士大夫の道にけり其弊に
至りてハ乳臭の兒も高妙精微の論をまゝ實用に遠く
事業に施す事を知らぬ又考證の學とつらその古に誓て
後世の惑を辨む古訓に據りて經義を説きて學者に益あ
れども其弊をいつらたハ務て新奇纖巧を競い聖人の大
業盛徳を以て論をまゝ無用の辨に歲月をばいやり歸ま
る處ハ堅白異同の説にいつくして實事に益あり人を
志して聖賢の書を以て席上の翫物とけりけりむるよいつく又
近世蘭學といふもの世に行もま其本を譯官の和蘭談を

翻譯をよみのみりて世の害とあはれ是よりて海外の
事情を審みしり或は其藝を取て國家の用を助く事
ありつゝ亦れとも聖賢の大道を知らざるの胸中定
見もたゞ徒に蘭書を見て新奇の巧辨を悦びたり窮理
と稱して一草一木禽獸蟲魚等の空理を穿鑿し人の支躰
を屠り天地に陰陽動靜の活意ある事論し器玩均
しく死物とを其甚しき國家に嚴禁せらるる西洋の邪
教をも竊し信し其教實に邪説にあはれ切を憚らる
く口舌を振ひ愚民を迷も兵書あり人をく敵の美を
説かむる事切らきとくとも國家を害ても外虜の防

禦を蔽ひきらるる深意をも憚らる民心を移動し陰に
外虜を尊信せむる術を巧むる國家の姦民や稱をへ
たりかくのあはく学士書生の論を所さるる異
同の説りて各其長き所をあはれ其本を失ふて
神聖の大道を明らうりけき捨て從彼とつら至る
もの又多し經語に雖小道必有可視者致遠恐泥是以君子
不為也といへとも農圃醫卜のみを指せるもいへり
てかくのあはく大道を本はらうり偏見私説をあはれ
の事皆小道切れハ遠をつらむる必に泥む是既道あり
さきハ異端邪説俗儒曲學の流弊の害の頗る多きより

て義公の御詞より一偏に固執をなさるるものと儒中の異端ありと仰せられしなり然るに今度公の世の惑をなすに大道の本はきて識見既子開き其本既子立其政を誤らざるとしハ前子擧る所の曲學の徒のたふ業ありとも其好む子任きて是を字い各其長をす所乃材を成就し國家の用を成さる至りてハ何れ害ありむや小道とつゝも大道中の小道則きは其本を失ふ事ありむ子大小道並ひ行とれり相とらざるを憂ふなり本文子中世以降より東照宮撥亂反正の跡前を指しされハ文のやうぢれとも前子擧るべきは國家の大事とあるべき條より廣く論を

らさるるあやまて前後の文子混むべきはつゞけ今の世みづから曲學邪説の大概を擧る吾子の問に答るは問東照宮亂を撥し正さる反し給ふまは兒童走卒の知る所は論をよる及も其尊王攘夷といハ何れの事かハ指し給つるあはぢや曰東照宮恭儉の徳中より富四海内を保ち給へり勢を恃給ふは屢京師を朝し君臣の義を正さる給ふ兵亂の世より至尊より公卿大夫に至るまで萬事匱乏の困りみ給ひて禁城の狹隘なりとも増

擴ありて脩理し給むらう供御の田を増きて供給關る
りてかく秘籍寶器の亡失さうと御座に返し納免伶官の
職を失ひし先職に復せしめ 朝廷の法制を撰述
せられ伊勢

皇太神宮二十年改定の期古法をうけひしり永制を立
給ひ又亂せしめ 朝廷財用を治し御即位大嘗會
等の禮し行もさし僅に大内氏毛利氏などの其料を調進
せし事ありしのみなり織田氏豊臣公の時より其
料かゝる事ありしなり 東照宮に至りてハ益
朝廷を尊ひ永せしめ大禮行もれ其後義公の撰述をう

きし禮義類典を進獻しりしり禮義全備しり 幕府
より其料を調進ありしなり曠代の廢典全く再興しり
御代ことを行もるし事とハかりしり承ふ是等の事皆
尊 王の義と申奉るしりあり又治世に亂を忘れ給
しり常子子弟に訓戒し給ふるも日本太平しりて武道怠
る時を異國より日本を伺ふ故異國亂ししと聞ハ武道の
達人を撰むて是を押しさし日本の中我軍ハ勝負とも
に其一家斗りの盛衰切り外國の争ハ負たる時ハ日本國
の耻辱なりと深く戒免給ふる依りて西洋の邪徒
神州を伺ふ事も深く察し給ひしり其禁を甚嚴にせり

給ふ 台徳大猷二公も御志を継ぎうれ寛永の年かて
 子盡く誅戮有りて永世の禍根を絶給ふて國家の武威の
 外國子震いハ是皆攘夷の義と稱し奉るる事あり
 問古来賢哲多れ中子威公ハ獨り日本武尊を欽慕し給ふ
 事ハいつくぢる故に候つるや
 曰威公の欽慕し給ふし御主意書傳つしもの如きハ何
 の故ある事を存し奉らば然きとも愚意を以て窃に推考
 するふ蠻夷滑箕と云ハ虞帝の患る處あり古海内の戎狄
 民の害をちせし能襲隼人の類も有り其勢の強大な
 るものと蝦夷も志くりのたあり常奥二野越羽の地も充滿

しと良民一日も生と安むき日本武尊も 景行天
 皇の皇子もしと英武絶倫なり草薙の寶劍の神威も仗る
 常奥の蝦夷を征討有りて 皇威を奮たれしとあり
 て世々夷狄を攘斥せられてはるる蝦夷の禍永く息しあ
 り威公も 東照宮の御子ありて英武超絶しと常陸の
 地城領しと東地と鎮撫し給ふ然きハ日本武尊の功烈あ
 り如く永世あり 天朝の藩屏として夷狄を鎮撫
 し給ふとの雄志を奮ひ給ふしと有り發せしとありやと察し
 奉るなり况や吉田神社ハ日本武尊を神と祭り名神の大
 社もしと大城も密邇も遠く日本武尊の徳を慕ひ給ひて

遺志と奉承し給んと追々思ひ給ひて宗社の鎮護と先生
 民の大幸ありては公の欽慕し給ふを實事おぼ
 て感し給ふ所ありしは是より神道と尊み蠻夷の左
 道と排し武威の衰へきやうありし兵備と繕て戎狄を
 攘斥せしもの手當ともぬきり何れも實事な施し給ふの
 御志より發せらるる事ともぬきハ學生書生の徒其氣
 象言語等のみと稱をふり如きは非ざるんやと存し奉る
 問義公十八歳より伯夷傳を讀給ひ感發せられ是より
 學と好み脩史の御志も立て讓國の義も成し給ひし事

も人々の知る所よりて是より依りて更なる儒教を學び人倫
 を明ありて名分は正し國家の藩屏とならざるをうれはき
 もある事より候とも威公も日本武尊を慕ひ給も
 せらるる義公も伯夷傳を感發せらるる孝ハ志は継と申候へ
 とも日本武尊と伯夷と氣類も同一なり存候へハ威公
 の御志とも異なる所ありしは候や
 曰日本武尊と伯夷とハ同一なり候はるやうに候へとも其
 時より候はるる其實事なはき感し給ふハ一徹あり義公
 ハ御兄はあえて世子に立給へハ夷齊讓國の義も感せら
 ざるも其實事なよりて感發し給ひしは是れよりて學

と好み給はしし聖賢の道と學ひ得て實事を施し給はん
 らば是れ此道と深く尊信し明の義士舜水先生子師
 とし事つて弟子の禮を執り給ふ脩史の事も其本も大義
 と天下に明らめし天下後世まで人倫を明らめしを
 此の大志より發し給ふ所の書も儒生などの紙上は空
 論せる如きは類もあはれ依て聖人の教を尊崇し給へ
 るも修己治人の道と事業を施し士民を教導し給ふ條目
 を載りきしは五倫を以て本とあり史を脩給ひしは神
 功皇后と妃を列し天皇大友が本紀にて壽永建
 元の天子と正紗と給つるの類は天下後世の人

臣がし大義を誤らざるは人倫を明らめしを
 るの實事し筆端は空論なり如此しは國家の藩
 屏とありされ天下に大益ありは是皆其實事なり威
 公の御志を継給ふ所なりしは神道を學ぶ神宮寺本
 地佛ありし陋習を除く唯一の神道と給ひ吉田神
 社をも再興ありて日本武尊を慕はれ遺志を成就し
 武備を繕はらるるも大義が明らめし名節を磨勵
 し心膽を練り給ふ一川とて威公の志を継ぎ述給ふ
 るありはるるありかくのより卓見ありはきりぬ國
 中を風化し給はんや其項なりしは學校の事

も世々希かりしは學校を立て教を施んと志し、牽水先生に就き關里の聖廟の制度を問ひ、小形を以て製し給ひ、其後幕府より昌平坂の大成殿を營造ありしは、大の小形を指し出され、其制を模擬し、天下の學士瞻仰せし處とありしなり。學校の事ハ古へ京師に大學あり、國に國學あり、官人の子弟を教育せしむるも、争亂の世に廢りて行なはざりし。東照宮禍亂を平け給ひし時、至りて藤惺窩林道春等を召され、經旨を訪咨せしめ、自ら一貫中和經權等の義を論じ給ひ、續日本紀等の遺書と求て校定せしめ、銅板の活字板を製し、群書治要等の書

を刊行せしめらば、類を以て、東照宮の學を好む給ふ事も推して知る處なり。又林氏の忍岡の別荘に學問所を立て給ひしと、後其所を移して規制を廣めらる。即今の昌平坂の學校あり、是等の事も其本ハ皆東照宮學の好み給ひしより淵源ありしなり。台徳公及公尾張敬公の儒術を尊む給ひ、又紀伊南龍公と我威公を神道と尊信し給ひ、義公に至り、儒術を尊む、聖人の教を崇奉し給ひ、如く今日に至るや、臣子の身なりて、斯道を推弘め、東照宮及び威義二公の先徳を、發揚し、今此學校を設け給ひし深意を遵奉せしむる處なり。

問上世の功烈乃神少かり其内建御雷神と祀り孫の事は亮天功於草昧留威靈於以土との義と以て祀り孫の事おきとも今弘むる所の道も天下の大道なり天下の大道と弘めて其本を報るおとも茲土に威靈を留め給へる神のいふ限るゆきも非るま似多り

曰斯道ハ前にも論きし如く天地なれ人倫あり自然の大道あり事即ち天地の道あり天地の初は天照太神神器と

皇孫に授け給ひ一時より忠孝の道顯き君臣父子の大道既不明あり
神武天皇天下を一統し給ひ播原の

宮に即位せしはきりきり君臣の禮益明あり靈時と鳥見山に設けし

皇祖天神を孝と申へ給ひしより父子の恩愈隆なり然る今天下の臣民父子事つて君子はうへ奉る誰う

天照太神よりし
神武天皇の教化を仰ぐさうむ
やされハ教化は本を報ひ奉らんハ

天照太神
神武天皇を祀るつて身勿論おれとも今
至尊かきしけりとも

日神の正胤をかりし
天位に居て
皇祖天神を祭り給ふ事おきハ海内の人同心同徳なり

天朝の誠敬と盡さず其誠敬をわの川なり

皇祖天神より通をくしやと禮を天子ハ天地と祭り諸侯

を封内と祭る又諸侯ハ天子と祖とさけ杯と申事も備ま

ハ我納言公 皇室の誠敬と盡し東土と鎮撫して教

化と施し給ふ其本は報をるも禮意と酌斟せらる封域

ハ常陸より鹿嶋の神宮ハ常陸の一宮ありハ此神を祭

り給ふその神の功烈の事を史より見えし如く

天照太神天下と 皇孫を傳つくとせらる時國土

つやと平かきりしハ此神大己貴神の許に使しよの地

を獻せし地より國土安寧なり 皇孫も降臨せ

し給し其時 皇孫ハ筑紫に降り給ひ猿田彦神を

伊勢に趣り鹿嶋の神に御事ハ史より見えしれとも此

時東國征討ありしと見えたり同躰の経津主の神ハ下総

に留りたり建御雷神ハ常陸に留りたり然るも常奥

の地に鹿島香取の神と鹿島御見の神と多く祭り

と見え見ふ時も鹿島香取の神よりし其子孫に至るま

て累世力と盡し 天朝の為ハ東國を綏撫し給ひ

し給ふ 神武天皇中州と平定められし時

に建御雷神靈の劔と熊野高倉下を授け 天皇は獻

せし地たりし依て千軍の氣振起して敵と挫きて大功

と成り給つり然るに此神の功烈は東國に及ぶのみならず
河内は天孫降臨し給ひて天祖の中土と
平定されし事も其の神は功烈甚大なり是其功天下
に及ぶに及びしれに今世神を祭り給ふ即ち東土を鎮
撫し天朝の藩屏とある
天祖の徳澤を報ひ給ふの義あり士民に至
るまで其の始に及び其本を報ひて此神を尊奉し天功を
亮し古を念ひて同心同徳ありて天朝を奉戴せ
る其誠敬の處を皇祖大神も通るべき道理ありやと云ふは因る斯道也

上古より神の極と立給へる天地自然の大道なる事とも
知る

天祖の忠孝の教四表に被給ひて此神の功居多し
よと知りて其神意に随ひ大道を天下に
明し
天祖の象教を示し給ひ深意を叶ふ事あり即ち此の
神を尊奉するの本意なり然るに其祭る所は一國の神
なり是より皇室を尊ひ且大道を天下に
明し其功大なる事あり此神の天功を草昧に亮し給ひ
功烈の末光を瞻仰するの道なり申す是より

天地の神と祀らるるは此神と祀りたまふは我公の深
意なり。備前の處かと存し奉るべき也。
問孔子の廟と建給つる事記文は詳なきも願ふは初學
のため其着實たる處と告らざればとんと云ふ
曰唐虞三代の道ハ人倫と明はるる道なきハ天下の達道
としんふ即ち天地の大道あり愚夫愚婦としんふと
知るる行ふ處道なきも教なきやれば是と知るは
やあつたれし人々禽獸に近し故に堯舜の五典と行ふ
親義別序信の教と知らざられば人民始て禽獸に
なめられし事と得たり孔子に至りて群聖人の美を集め

て大成し堯舜と祖述してより堯舜の教もいつく明か
かりて後世人倫の模範も倫も即ち唐虞三代の道折衷於
此といは是たり孔子の教 神州を行きし事も
應神天皇の御宇論語の書もして是て傳たり以後聖人の經
書次第に行きしはよと人の知る處あり道ハ天下の達
道たれハ四海萬國人倫のたつて限りも自然に行きしれ
やと戎狄も偏氣の國たれハ其教もなき處邪僻ありて人
倫明くありはる事多し 神州と漢土といハ東海に臨め
る地勢ありて大陽の出入方に向ふ陽氣の生るる處あり
て正氣の國なきハ其教も正しくし前も論せし如く

天地の初より五倫の教興あり 神州の古より人民淳
 朴より自ら神明の大道を合ひて進んで實を
 り文を赴き天地の常なり名教を以て治りて忠
 孝仁義等の名を立て教をありて民多岐に迷ひ易し
 故に漢土より教を置く處は忠孝仁義等の様を名ありて
 因りて孔子の盛徳を摸範として人倫を明くする是人
 子取て善とまざるの義ありて欽其徳資其教なり即ち是れ
 神聖の大道大に弘まり今日に至るは君父を事へ臣子
 を養ひ夫婦兄弟朋友を和睦し禽獸を異れ事を得て

偶然に巧くはきハ學校と設けて孔子を祭り給ふ
 也其本と忘れ且々其偶然なり故とて人倫と明くし其學を所
 の義ありきハ神社聖廟と瞻仰し
 神聖の教の本はく處をあり人倫を明くし其學を所
 と實行實事を施むと
 神聖を祭りて乃深意あり
 問鹿島の神ハ武神なり孔子ハ文徳の聖人なり然れハ神
 社ハ武夫の拜する神なり聖廟ハ文學の士は拜する所
 似あり今社廟とも文武の士と同一に拜するは
 如何

曰今人の文武とつゝやのをも文武の藝あり古人の文武を
文武の道ぬき刀鎗弓鋤等の術は武藝あり禮義兼耻と知
て士道を守り節操を勵し國家の干城とぬきハ武道は
り文字とつゝみ傳註と説き博文強記とつゝ故事と知り詩
文書算と能き如き皆文藝なり忠孝仁義と本とつゝ
神聖の大道に通し國家は事體を明くしつゝ公侯の腹心
とつゝ重き文道あり藝と論する時は文藝と武藝と
各異なりとも道と論するは於てハ文道武道ともハ車の
兩輪のあといく相離りつゝハ是はふたりて古も道藝とて
道と藝とを一とつゝ藝ありハ道ぬきハ契り射なりハの

如く藝と却て害とあるなり又古の六藝ハ禮學書數
ハ文射御ハ武なりハ藝ハ教あり文武を兼て教ふなり故
に孔子ハ有文事者必有武備と仰せられぬり鹿島の神も
武神なりとも

天祖の象教と垂きて天下に照臨せりハ天功ハ亮け奉り
しハ文徳とも申ふハ孔子ハ文徳の聖人ありしハ兵ハ
足る事ハ論せられしハ夾谷の會ありハ齊侯ハ強暴を席上
に挫け三都を墮ち陳恒と討きんと乞れハ類の事と以て
見る時も武徳とも備へられハ人ハ知る處ありしハ論
するも及むハかくはあといく文武の兼結ふつゝあとも

本朝と漢土や同一揆あれや今 神州の道は奉るに西
土の教は資て子弟と教へ給ふる神社聖廟と尊敬し其
始に及び其本を報るに知らしめ文武と一なる有用の
人材を成就し給ふべきに依る記すも文武不岐と仰を
しるべき

問文武不岐の義は粗聴く事を得たり忠孝無二の義平日
無事の時も忠と孝と全く行を違申へく候へども事は變
は應に給は忠孝兩全し難きは古より人の申あとも有之
候へども無二と申せり申せり候へども事は變
曰忠は父を敬むるの心は取て君を事ふる心と孝

経にも見えたり孝も愛敬の二つありて父母を養ひ愛敬
を盡すは勿論なり身も父母の遺體なり身身體髪膚
父母より受たるそのけきは其身も父母の身も同一なり
事はおもひて是は敬あるより身を立て道を行ふ事
父母の遺體と聖人君子にあはるの義なり依て天子を天下
を治め諸族を一國を治め大夫士も君を侍はてて力を盡
すは皆其身の天職を治るより即ち身を立てるの孝あり
故に事の變に臨て君の為に一命を捨て父母の養を闕く
の類の事も時乃宜は適り即ち身を立てる孝といふ
又官禄を捨て父母を安んずる類の孝も君の政を孝と

以て國家を治めらるるは道なり叶ひて是亦忠ともなり
つれなきは何きよきと忠孝兩全とも申ふ右に論ずる
如く忠孝ともは愛敬の本とも其本も一に別れ
天祖の教は三種の神器を授け給ひて君臣の義正
く又三種の中ありと寶鏡と夫士の徳を以ては
天祖の神なり事一給ふ所なり孝道も博くあり
と以て論ずる時其教は忠も孝も三種の中は寓する可
れは是忠と孝其本の一に出る事天地の初より
其教象明なり然らば忠孝無二きかゝるの義は侍らんか
存し奉るあり

問學問事業不殊其效の義誠は如此なりつれ事不候一
とも今世學問はくは事業はあり得るもの少かり學
問事業はつれは學問は候ものも却て迂濶
なり事業は施すはつれ何故は候や
曰古も治教一致なり國家を治るは道ひくは徳を以て
一齊くするは禮を以て其上より政刑を以て其善惡を
賞罰を以て藥劑は君臣はる如く政刑を以て徳禮を佐
常徳禮政刑一合なり治教を施す仁ハ一身よりて
は天下に施し四海の民を安きんと是を天下の大道
なり學問はつれは修身治人の道と學は徳禮政刑の實

事の脩行ある故學問や事業と皆一致あり故に人と教る
ふも文行忠信の四を以て忠信を主として徳を脩め禮
樂政刑の文を學ぶ徳をも脩め禮樂政刑の文を學び徳
をも文をも是を實行に施す事と教る故學問は事業と學
ひ事業を學ぶ所を行ふ即ち經語にも學而優則仕とて學
ぶ所を實事に施し其用となり學問と事業と二川は切
らざるなり後世治と教る別物はありて國家を治めると
も徳禮も高閣は束ね刑政のみを治免る故に世を胥吏
の世とありて聖賢の道と學びて少く才智を以ては世に
濟む事なり學問を儒者の私言はあり其身に老儒先生

とひるも止る訓話と學びて者も文字句讀を終身の力と
盡して心性を説く者も詩書執禮の活用と講究を近世
太平久しきふり風俗の渝薄より名と釣りと才と闘
とむるのみなりて講釋詩歌文章書畫の類と學ぶ者
の能事や心得宗社の安危も胡越の相關かたはる如く
一心を治まは國も治るなり先儒の口真似て高く
標持するのみあり事業に施す事と學ぶは人情世
態と察する民間の利害とも知らず事業とも全く懸隔を
し用とたざる學館と設て人材と教育し給ふんまかく
の如く無用の長物と養ひ給ふべきなり學士たりん

其の事業を施せざるも實用と講究し孔門弟子徳行言語
 政事文學等各其才の長を所し志をかゝりて國家の用と
 切を以て事々學ひし如く才徳成就して國家の恩を報
 ひてすつらんと志し文學を好むそのも餘力と以て詩
 歌文章とし學ひ意思を述べ性情を吟味する如き其
 人の好む所を任まつたあり但其本と爲る所も神と敬し
 聖と崇い神道も即ち聖道あり聖道も即ち神道なりと心
 得て大道の本意を失はぬ文武の道と學ひて熟練し衆思
 と集め群力と宣へ忠孝と盡して國恩を報ひ
 神聖の靈り降臨すははるに至らん事と片時も忘るる

られされとも人材と實事を用ゆるも少く養ひ成さん
 と容易の事なりは我濟淺陋の學なり其任に堪ゆる
 きはあり且又教と治を並ひ行きて輕重なく二川の
 の一本と執り天下を率ひ申さん臣下は專ら之を
 あり其治教も辱せぬも國君の自分紗へ強て之の
 盛意あるもさうて結語も設斯館紗其治教者誰とあり
 て御名を記させらるる是即ち義公の士臣と喻し
 ひし聖賢の道と學ひ若し我も亦儒者ありとの
 こすひ遺意ありんめをわしけり奉るべき記文の
 深意も國君の自りてさるる所あり我輩の口舌と

以て論說せんも憚りし事ありしも黙して答へたり
むも職分と疎畧なきも近りれり聊々吾子と向ひ答ひ
るあり無誓の臆説も多かりし恐懼の念少かりし吾子
と更子明識の人と就て正されんあつと希かりし

會澤安謹述

退食閒話終
於人林と書事と用ひて

島田藏書

業書

